

「宝の都（くに）・大崎」の実現に向けた持続可能な田園都市の創生

宮城県大崎市（2022年度選定）

1.地域の特徴と課題及び目標	本市は、世界農業遺産「大崎耕土」を核とした人、物、社会基盤、自然環境、歴史、文化など、先人の優れた知恵と絶え間ない努力によって構築された「宝」があり、この多様な「宝」を活かすことで、人口減少による影響の顕在化はもとより、「食・農・森林・河川・田畑を活かした、大崎らしい田園都市の実現」、「世界農業遺産の価値と資源の継承」、「仙台圏及び首都圏等からの人の流れをつくる」、「安定した雇用の創出」といった諸課題に対応し、持続可能な田園都市「宝の都（くに）・大崎」の実現を図る。	2.関連するゴール 
3.取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	世界農業遺産（GIAHS）とSDGs目標を連動させ、喫緊の諸課題に対し、多様な主体の参画により、カーボンニュートラルな食料生産、生物多様性の向上、グリーンインフラによるレジリエンス、GIAHSツーリズムなどに関し、「人」、「知恵」、「資源」のつながりの再構築により、新たな付加価値を創出し、持続可能な地域づくりを実現する。	
4.自治体SDGs推進等に向けた取組 【大崎GIAHS・SDGsプラットフォーム形成事業】 ➢ 大崎GIAHS・SDGsアカデミープロジェクト ・ 「世界農業遺産大崎耕土スタディツアー」の学習プログラムの実施、「ドジョウ類とメダカ」の市民参加型のモニタリング調査の実施 ➢ プラットフォームプロジェクト ・ 農業者や企業、NPO、金融機関、大学等によるステークホルダー会議の開催 ・ ロゴマークを活用した普及啓発物品の作成 ・ 「おおさき生きものクラブ」10周年記念フォーラムやネイチャーポジティブシンポジウムなどの普及啓発イベントの実施 ➢ 世界農業遺産ブランド認証制度プロジェクト ・ ステークホルダー会議で登録制度を検討、「おおさきGIAHS・SDGsパートナー」登録制度の創設 【大崎ネイチャーポジティブ定量化事業】 ・ 大崎耕土特有の「居久根」及び水田景観がもたらす生物多様性の定量化に向けた指標と調査手法の作成	6.取組成果 【三側面（環境・経済・社会）をつなぐ統合的取組による相乗効果】 ➢ 経済⇔環境 ・ 世界農業遺産の保全活用への参画企業数：2社（目標：10事業者・団体） ・ GIAHSツーリズムの年間参加者数：306人（目標：200人） ➢ 経済⇔社会 ・ 認定新規就農者数：67人（目標：70人） ・ 第1次産業の市内総生産額：106億円（目標：140億円） ➢ 社会⇔環境 ・ 居久根景観の保全に関する住民協定の締結数：1協定（目標：4協定） ・ 世界農業遺産の市民認知度の向上：56%（目標：70%） 【世界農業遺産ブランド認証制度（コト）の拡充】 ・ パートナーの見える化・連携による世界農業遺産「大崎耕土」及びSDGsの推進 	
5.取組推進の工夫	7.今後の展開策	
多様な主体と連携したステークホルダー会議を通じ、「おおさきGIAHS・SDGsパートナー」登録制度を構築し、募集を開始した。	令和5年度に「おおさきGIAHS・SDGsパートナー」登録制度を開始し、引続き市民参加型のプログラムも継続しながら、世界農業遺産「大崎耕土」やSDGsを自分事として取組む主体の拡大とパートナーやステークホルダーの連携による取組の推進を図る。 令和6年度までに大崎耕土の生物多様性の定量化に向けた指標と調査手法を確立し、大崎耕土がもたらす価値（恩恵）の見える化を図る。	
8.他地域への展開状況（普及効果）	世界農業遺産「大崎耕土」にともに認定された近隣自治体への取組の波及、SDGs未来都市選定による他県からの視察受入、ロゴマークを活用した普及啓発	